



混合交通を観察する  
**DOCUMENT**  
series—208  
**Eye**

- 観察場所/東京都世田谷区太子堂 二丁目付近(国道246号)
- 観察日/5月11日(金曜日)
- 天候/晴れ
- 観察時間/15:50~16:50
- 観察者/5名

●ライダーとパッセンジャーが着用しているヘルメットの形状と着用状況を観察する  
**1時間に観察したライダーとパッセンジャー446人中、ヘルメットを正しく着用していない人、129人(28.9%)**

●WHY

**ライダーおよびパッセンジャーはヘルメットを正しく着用しているか?**

二輪車に乗車する際、ライダーおよびパッセンジャー(後部座席同乗者)は、安全のためにヘルメットを着用することが義務づけられている。  
昨年の二輪車乗車中の交通事故死者

数は1119人(原付525人・自動二輪594人)。その内、原付では36%の190人が、自動二輪では32%の188人が「ヘルメット脱落あり」となっている。ヘルメット脱落の多くはあごひもが緩いか、あごひもを締めていなかったことが原因である。

「あごひも、しっかり、ヘルメット。」をスローガンに、昨年(社)日本自動車工業会のキャンペーンが展開されるなど、二輪車に乗車する際には、あごひもをしっかりと締めてヘルメットを正しく着用することが求められている。東京都内の国道を走るライダーおよびパッセンジャーのヘルメット着用状況を観察した。

●WATCHING

**スーツ姿のビジネスマンに、あごひもが緩い人、あごひもを締めていない人が目立つ**

観察場所は東京都世田谷区の国道246号線(玉川通り)の太子堂付近。片側三車線ある道幅の広い通り。

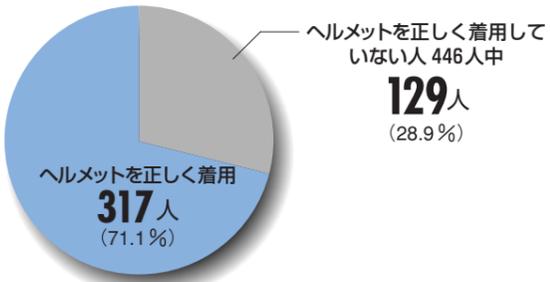
1時間の観察で通過した二輪車は上下線合わせて、原付(125cc以下)・206台、大型スクーター・117台、スポーツタイプ・105台の計428台。このうちパッセンジャーを乗せた二人乗りの二輪車は18台だった。若者の姿が目立つが、配達などのため二輪車を利用する大人も多かった。

観察したライダーおよびパッセンジャー446人中、ヘルメットを正しく着用していなかつたのは129人(28.9%)。あごひもが緩い状態が87人、あごひもを締めていない人が40人、ヘルメット非着用者も2人観察された。

●ライダーとパッセンジャーが着用しているヘルメットの形状と着用状況(人)  
※( )内:パッセンジャー数

		正しく着用	あごひもが緩い	あごひもをしていない	非着用	小計
原付 (125cc以下)	フルフェイス	11	3	6	2	22
	ジェット	35	12	8	0	55
	スクーター	18	9	3(1)	0	30(1)
	ハーフ	66	30(2)	7(1)	0	103(3)
小計		130	54(2)	24(2)	2	210(4)
大型スクーター	フルフェイス	7	1	2	0	10
	ジェット	37(1)	7	6(1)	0	50(2)
	スクーター	4	1	0	0	5
	ハーフ	48(5)	10	1	0	59(5)
小計		96(6)	19	9(1)	0	124(7)
スポーツタイプ	フルフェイス	41	6	3	0	50
	ジェット	20	4	2(1)	0	26(1)
	スクーター	4	2(2)	0	0	6(2)
	ハーフ	26(4)	2	2	0	30(4)
小計		91(4)	14(2)	7(1)	0	112(7)
合計		317(10)	87(4)	40(4)	2(0)	446(18)

※原付(125cc以下)206台、大型スクーター117台、スポーツタイプ105台、計428台



ヘルメットを正しく着用しているライダー



あごひもが緩い状態で走行するビジネスマンと思われるライダー

●PROPOSE

**ヘルメットの脱落防止のためあごひもをしっかりと締める**

ヘルメットの着用で、万一の事故の際に頭部の損傷を軽減することが期待できる。ただし、自分の頭に合ったサイズのヘルメットで、さらにあごひもをしっかりと締めて正しく着用しなければならぬ。

あごひもが緩い、あるいはあごひもを締めていないライダーは若者だけではなく大人にも見られ、配達関係やスーツ姿のビジネスマンにもあごひもが不完全な例が観察された。

ヘルメットの保護範囲が広い順にフルフェイス型、ジェット型、スリークォーター型、ハーフ型と4つの形状別についても観察したが、形状に関わらず、あごひもが緩い、あごひもを締めていない人が観察された。原付や大型スクーターではハーフ型の着用が多かったが、中にはハーフ型のヘルメットの下に帽子をかぶっている例も多く見られた。

また、パッセンジャーの中には免許を持っていない人や、二輪車に乗るのが初めての人もある。この場合はライダーが責任を持って、正しいヘルメットの着用を説明し、着用してもらうことが大切だ。転倒した際にヘルメットが脱落することの危険性をライダーは再認識し、自分とパッセンジャーの安全を確保するために、あごひもをしっかりと締めた正しい着用率に率先して取り組んでほしい。



ハーフ型のヘルメットの下に帽子を着用しているライダー



ヘルメットを着用していないスーツ姿のライダー

自転車との事故を未然に防ぐヒントを掲載した小冊子  
**「トラフィック・サイクル」発行**  
～自転車は街を走る仲間～



Hondaは、自転車との事故を未然に防ぐヒントを掲載した小冊子「トラフィック・サイクル～自転車は街を走る仲間～」を作成した(監修:岸田孝弥・中京大学教授)。2006年の自転車乗用中の交通事故は約17万件と交通事故全体の約2割を占め、増加傾向にある。また、その相手は8割以上がクルマである。

この小冊子は、クルマやバイクの運転者が、自転車利用者の行動特性を理解し、事故防止に役立てていただくための知識やデータ、コラムを掲載している。Hondaの四輪販売会社および二輪販売店を通じて、お客様に配布する。

●主な内容

- ①よく見よう! 子どもの自転車
- ②よく見よう! 中学生の自転車
- ③よく見よう! 高校生の自転車
- ④よく見よう! 幼児を乗せた自転車
- ⑤よく見よう! 高齢者の自転車

・「自転車を守るために一私たちができること」  
・特別付録「楽しく覚える標識トランプ」

詳細については、  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/cycle/>

●お問い合わせ先  
本田技研工業(株)安全運転普及本部  
TEL: 03-5412-1736